

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22年 10月 30日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3472500887		
法人名	医療法人 好縁会		
事業所名	グループホームふれあい		
所在地	広島県東広島市西条町寺家7429番地 (電話) 082-424-8801		
自己評価作成日	平成22年10月7日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3472500887&amp;SCD=320">http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3472500887&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成22年10月27日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・好縁会生活づくり10か条 ①「まず座る」②「食事は座って自分で食べる」③「排泄は自分でしたいもの」④着替え、入浴、身だしなみ」⑤「用具の活用」⑥「意欲を出してもらおう」⑦「すること、会う人、行くところ」⑧「心が動けば身体も動く」⑨「閉じこもらない」「こだわらない」⑩「生活行為に勝る訓練なし」</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>当事業所は、経営母体の医療法人や多くの関連事業所と密接に連携し、職員が一丸となり運営理念の実現に邁進されている。玄関入り口には、当日出勤の職員の写真と氏名を掲示し、ご家族の訪問時には担当職員と相談・会話が行き易いよう工夫され、管理者以下全職員が笑顔あふれ、ゆったりとかつ的確に業務を遂行されている。特に職員の方々の礼儀正しさと、落ち着きは爽やかな爽快感と、“ほっと”安らぎを感じる雰囲気醸し出し、穏やかな利用者の表情から、理念通りの支援がなされている姿が覗える。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念と共に、事業所独自の理念・目標を掲げ、朝礼時に唱和しながら、常に意識している。	母体法人（医療法人好縁会）の基本理念を踏まえ、各ユニットの職員全員で討議し、利用者の立場・目線を大切にしながら、其々独自の理念を創りあげている。全職員は理念を共有し、ケアの意見の統一が図られている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	普段の活動や生活の様子について、定期的に広報誌を発行、近隣施設に送付している。また、夏祭り等行事案内をしている。	開所以来、地域との関係づくりを地道に取り組まれてきたが、近隣地域の特殊性（学生アパート、新興住宅等に囲まれている）により、町内会等密接な関係作りは今一步であるが、運営推進会議に老人会代表が参加されたり、夏祭りに地域の人々の参加を得たり等、徐々に交流が深まりつつある。	地域との付き合いに、今の努力を積み重ねる事も大切であるが、もっと施設に色々な人が出入りされる機会作りとして、幼稚園児・小学生の訪問やボランティアの積極的な受け入れ、ホームの前にある庭園の活用等工夫される事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	外部向けに、認知症に関する理解を求める教室を開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の内容を回覧して、全職員に通知し、ミーティングを通して、サービス向上に反映するようにしている。会議内容については、各家族にも通知している。	運営推進会議は、定期的に行われ、状況報告・質疑応答が主となっており、双方向的な会議が開かれ、日々の運営に活かされている。又、運営推進会議資料と毎月発行される広報誌を、利用者のご家族には送付され、会議内容の周知を図られている。	参加メンバーに、利用者の家族が複数参加される事と、特定の家族でなく、幅広い家族の参加を促すよう、工夫されることを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議等、定期的に市の職員と交流をもっている。また、市からの見学も受け入れている。	行政担当者とは、様々な機会を捉え報告や連絡を密にし、日頃から連携は取られ、運営推進会議にも行政担当者の参加を仰ぎ、意見・指導を受けている。	

## A

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	内外の研修を通して、身体拘束に対する理解度を高めている。	毎月1回、母体法人の介護研修アドバイザーによる学習会を行い、高齢者の権利保護や身体拘束に関し、全職員が共通の認識の下、職員の見守りの方法を徹底し、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	研修会などへの積極的に参加し、その後、事業所において、勉強会を行っている。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	職員同士で情報交換をすることはあるが、学ぶ機会は十分ではない。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	入居時に説明し、同意を得ている。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	電話や面会時にご要望をいただき、速やかに朝礼等で全職員に通達。ミーティング等を通して話し合い、改善している。	運営推進会議や家族の訪問時等、種々機会を捉え意見・要望の収集に努め、家族会も年1回開催し、面接がなかなか出来にくいご家族には、電話で話したりしてコミュニケーションをはかり、職員で共有し、利用者・家族の意見が運営に反映されている。	

## A

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	責任者会議や普段のミーティング、普段の会話などから、意見や提案など取り入れる様努めている。	毎月行われる定例ミーティングや、日々の職員間の意見交換や提案、及び自己評価の際、全職員から意見を聴取し、管理者は代表者に報告するとともに、事業所の業務改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	チャレンジシートの導入で、個人の目標や、その成果、それに応じた評価を行い、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人研修やスキルアップの為、内外の研修に積極的に参加している。また、法人内のマイスター試験の導入等、職員の力量も把握するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修会等での情報交換はあるが、それ以外でも、電話、訪問等交流の場を広げたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者の担当を決め、日常生活に積極的に関わり、信頼関係を築けるよう努めている。		

## A

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	電話や面会時、手紙、アセスメントを通して、できるだけ受け止める努力をしている。また、事業所に対してアンケートの実施をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	センター方式を取り入れ、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	野菜の皮むきや、洗濯たたみなど一緒に行い、家族の様な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時の対話や電話連絡、毎月手紙を送っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔からの友人や、親戚の方が面会に来られたり、歯科等かかりつけ医への受診、地元に戻られお墓参りをされる等、家族の協力を求めながら行っている。	利用者のご家族とお墓参りをし、その際親戚の方々を訪問したり、友人や親戚の方々の訪問等、馴染みの人や場所との継続的な関係を保つような支援が為されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤立しがちな利用者をリビングにお誘いしたり、利用者間に職員が介入する事で、関係が築けるよう支援している。また、普段の家事やアクティビティの機会を利用し、交流の場を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	季節毎の挨拶状をお送りしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を取り入れ、家族や本人の想いを尊重している。意思疎通困難な方の思いの尊重は難しいが、生活暦等から汲み取るよう努力し、家族の思いと共に意向の把握をしている。	日々の関わりの中で、利用者との会話・目の動き・表情から希望や意向の把握に努め、ご家族の思い等を参考にしながら、思いやりのある介護支援に努力されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時、センター方式での生活歴や趣味などをお聞きし、入居前の住環境に近づける様努めている。また、なじみの家具など、お持ちいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	食事時間等大まかな目安は決めてあるが、起床時や、昼間の休み時間、入浴の有無など、個人のペースに合わせ様、心がけている。		

## A

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>家族の意向や職員との検討を加えた上で、アセスメントシートや介護計画書を用い、ケア担当を中心にニーズの把握をしている。</p>	<p>利用者の希望、家族の意見を基にし、定期的にケアカンファレンスを行い、関係者の意見を調整し、必要な支援を盛り込んだ介護計画が作成されている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>「日誌」や「生活記録」以外に栄養アセスメント等を用い、日々の変化を記録している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>空床の場合、ショートステイとしての利用が可能。また、軽度の方の利用の受け入れも、介護予防の事業として、体制作りができた。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>夏祭り、敬老会等の行事にはボランティアによる、色んな催しを実施している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>母体法人クリニックと24時間連携している。また、他の科に受診の場合、往診に来ていただいたり、紹介状にて通院されている。</p>	<p>本人や家族の同意と納得の上、母体法人の医療機関を利用したり、家族と協力して、かかりつけ医の通院介助を行ったりし、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。</p>	

## A

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携体制加算を行っており、より密度の高い支援をしている。週1回、母体法人の看護師が当事業所に来られ、状態を把握している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に医療機関と連携している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	必要に応じて、医師や家族と話し合いを持ったり、説明をしている。また、職員間でも方針を共有し、支援できるようにしている。	過去に看取りの体験もあり、利用者や家族の意向を踏まえ、主治医・母体の医療法人や関連の事業所と連携し、最善の方策を提案し、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故時に夜間待機ナースに連絡が取れるシステムを導入している。応急手当や初期対応に関しては、医師より指示が出ており、職員間で統一している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の職員の方からの協力の下、利用者、職員で避難訓練をしている。	定期的に消防署の指導の下、消火・避難訓練を行い、同一敷地内の関連事業所の応援体制も確立されている。然しながら近隣・地域の参加に課題を残し、目下対策を模索中である。	今後、近隣との災害時の協力体制の確立、及び防災グッズ等の備蓄を検討されることを期待します。



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の人格を尊重した、言葉がけや支援を行っている。	全ての職員が、一人ひとりの人格を尊重することが、支援の基本として、利用者に対しては敬意と笑顔を持って接し、特に若い職員の方々のゆったりとし、丁寧で礼儀正しい態度で支援されている様子が印象的である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	最後に自己決定が出来る様な声かけを意識している。また、拒否されることに関しては、無理に強要しない。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者個々のペースに合わせるよう心がけている。散歩などを望まれた時、一緒に外出できる様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	必要に応じて、家族に衣類等の補充や理髪に依頼、理髪の出張サービスにて対応している。また、その日の洋服などは声かけをしながら、自己決定を促している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜の皮むきなど、職員と一緒にいたり、会話しながら一緒に食事を楽しんでいる。メニューに関しては、入所者の好きなものや食べやすい物を取り入れるようにしている。	栄養士のアドバイスを受けながら、職員が利用者の好みを考慮しつつ、各ユニット別々の献立が立てられ、準備や後片付け等利用者が出来る範囲内で協力を仰ぎ、同じ食事を利用者と職員が共に語らいながら、楽しく食事が出来るよう支援がなされている。	

## A

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスや量など、栄養士の指導の下適切に確保している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、義歯洗浄、うがい、ハミンググッドを使用し、口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを考え、時間を目安にトイレ誘導をしたり、入所者が醸し出すサインなど見逃さないように、努力している。	トイレ使用が原則となっているが、1名の方が夜間のみ、ポータブルトイレを使用されている、おむつの使用は無く、日中は生活記録等で、職員が利用者の様子から察知し、トイレ誘導を行い、排泄の自立支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	本人の排泄リズムを把握し、医師と連携しながら、適度な運動、消化のよい食事、水分の摂取に配慮している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴時間は完全に自由とはいえないが、体調や、気分によって順延する等、対応している。	基本的には、午後2時より入浴タイムとなっているが、利用者の希望・体調に合わせた入浴支援が行われている。	

## A

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している。	その日の状態などにより、昼夜 逆転することもあるが、日中適 度な運動を行うなど、努力して いる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。	服薬は職員が管理している。処 方の際は医師・薬剤師から説明 を受け、投与の際にも確認し、 飲み込まれるまで見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	洗濯たたみ、野菜の皮むきなど 、個々に合わせた形で役割を担 っていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	頻繁ではないが、花見や紅葉狩 りなど季節の行事、その他日常 生活でドライブに行ったり、近 くのスーパーに買い物に行っ たりしている。	年間行事として、花見・紅葉狩 りに年2回出かけ、平素は隣の コンビニや近くのスーパーに出 かけたり、施設内にある公園 のような庭園で散歩をしたり、 おやつや飲み物を頂きながら、 日光浴をしたりと、日常的に外 気に出来るだけ触れる支援が なされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように 支援している。	家族管理を基本とし、面会時 など所持金を確認していただき 、個々の力量に応じて保管管 理できるようにしている。		

## A

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	出来る方にはしていただくこともあるが、十分ではない。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	カーテンの色や、装飾品にも配慮している。また、季節に応じて、壁画を貼ったりと季節感を演出している。	共用空間は天井が高く、そこから差し込む光に照らされ、周囲に植えられた植物から季節感を感じながら、利用者が混乱や不快感を招くような飾り付けもなく、ゆったりと職員・同居の利用者とお話をしながら、居心地良く過ごせる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファや和室を利用している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、本人の馴染みのものを置いている。	利用者が、今まで生活されてきた環境に近い居室で暮らせるよう、馴染みの品々、家具・家族の写真に囲まれ、温かい雰囲気の下、居心地良く暮らせる工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々の力や能力を生かし、無理のない自立支援を行っている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

## B

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	当法人の理念は、朝礼時に時々職員同士で唱和したり、各棟の理念を作ってスタッフルームに張り出し、職員の共通認識としている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	普段の様子や活動について定期的に広報誌を発行し、近隣施設等に送付している。また、近隣の方には職員の方から挨拶を交わすよう指導したり、運営推進会議への地域代表の参加をお願いし、地域交流の機会を広げようとしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	外部からの要望があれば、認知症に関する勉強会等を行ったりしている。今後もキャラバンメイト等を活用し地域との交流を拡げて生きたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度、市職員、地域、家族代表、当事業所職員により、推進会議を実施、意見交換し、いただいたアドバイス等は朝礼やミーティングで共有し活かしている。会議内容については、全ご家族にも議事録を郵送している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市からの見学等の受け入れも行っている。また、運営推進会議等、定期的に市の職員と交流を持っている。		

## B

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	月に1回介護アドバイザーを招き、事業所職員で学習会等を開催し対応している。また、昼夜間での安全確保の目的以外での施錠は行っていない。玄関は極端な天候・気温の変化以外には開放するようにしている。		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	ヒヤリハット報告書やミーティング等を通して、小さな事でも見過ごさない体制作りをしている。また、内部・外部研修参加を通し学んでいる。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	具体的にまだ出来ていない。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	家族会等を開催し、書類を一緒に解説しながら、不安・疑問点に対応した説明を行い、理解を深めるよう努力している。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	利用者が話しやすいよう、利用者目線での傾聴に努めている。また、事業所に苦情処理担当者をもうけたり、公共の苦情処理担当の窓口をわかりやすい所に表示し、意見の反映に努めている。		



## B

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各棟リーダーを中心に意見を聞き、反映させていくよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	マイスター試験（社内）の実施を通して各職員がより向上心を発揮できる体制作りを行っている。また、マイスター資格取得に関わらず職員の努力、実績等は評価している。業務上の問題点や悩み等を聞く機会を持っているが、十分ではない。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人研修（中途採用含む）を実施、その他スキルアップの為の内部研修や外部研修に積極的に参加している。又、チャレンジシートを導入で個人の目標やその成果、それに応じた評価を行い、職場環境・条件の整備に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内の他グループホームとの連絡会議や研修会等での情報交換、他法人の同業者との電話での空室状況確認・パンフの配布などはあるが、訪問等交流を深めていきたい。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	担当者を決めたり、馴染みの関係を作っていくことで、じっくり利用者と係わる様に努めている。		

## B

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	電話、ご来所、手紙などを通して出来るだけ家族の意見を聞く機会をつくり、受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	介護支援専門員を中心に適正な社会資源の紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者に選択肢を与え、利用者自身に決めていただくよう努めている。また、調理や掃除をお願いすることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会、お手紙、時には連絡ノート等の機会を通して一緒に支えていく関係作りをしている。また、事業所内の行事等にも参加していただけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会の方が、自由な雰囲気の中で来訪出来るよう、職員からの明るい挨拶を心がけている。		

## B

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	それぞれの人間関係を把握し、必要以上のいさかきの発生を抑え、利用者同士が支えあう関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用終了後のご家族の訪問もあり、開放的な施設作りを続けている。また、季節ごとの挨拶状をお送りしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式のアセスメントを利用して、その把握に努めている。しかし、意思疎通の困難な人の思いが尊重されていない場合もある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時、センター方式で生活歴や趣味趣向などをお聴きし、入居前の住環境に近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメント・介護記録等を通してご本人の現状を総合的につかむよう努力している。		

## B

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>入居時・面会時や介護計画説明時にご家族の意向も合わせてお聞きし、見直し等にはその意向も取り入れ確認していただいている。また、ご本人の体調変化から介護の必要性が大きく変わってきた時には、プランの変更を柔軟に行っている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>「生活状況記録」への記入・職員間の連絡ノート等を通して、情報を共有し実践している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>当事業所全体では、空床の短期入所利用の体制作り、軽度の方の利用の受け入れ、介護予防の事業所としての体制作りができた。また、利用者個々に対しては買い物の付き添い等を行うように努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>夏祭りなどの行事を中心にボランティアの受け入れ等を通して、協働して支援している。又、地域で開催される行事などにも出来るだけ参加できるように支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入所時の希望確認の上、かかりつけ医（同法人クリニック）との密接な関係作り及び継続のもと、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>		

## B

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	同法人クリニックとの連携を密にとり、医療活用の支援をしている。また、医療連携体制加算の算定を行っており、より密度の高い支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	再々とお見舞い等に訪問することで、病院関係者・ご家族等との情報交換等に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合の指針を作成し、ご家族に入所時に説明することで、方針の共有を行っている。また、事業所内にて終末期における対応・緊急時の対応について話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	応急手当や初期対応の訓練、緊急時の対応の訓練は十分とは言えないが、緊急時の待機ナースへの連絡システムを導入しており、応急手当や初期対応に関しては、医師の指示書にて職員間で統一している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を年2回実施している。また、運営推進会議を通して地域代表の方との連絡を密にとっている。		

## B

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	それぞれの人格を把握し、個々に合わせた言葉かけ、支援を行うよう心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者とのコミュニケーションの中で、希望を理解できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事時間等の目安は決めてあるが、入居者個々のペースに合わせよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に理髪店に来訪していただいたり、ご本人の希望にそって、家族に連絡し対応していただいたり、個々の状況に応じて対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	テーブルを拭いたり等、食前の準備を中心に利用者に参加していただいている。また、個々の嗜好に基づいたメニューを心がけているが、充分ではない。		

## B

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	日々、食事量・水分摂取量を記録していくことで状態把握し、個々に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	個々にあった声掛けや歯磨き介助、うがい支援などを毎食後行っている。また、義歯の洗浄も個々に合わせて行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	「生活状況記録」で個々の排泄パターンを把握し、状況を見ながら声かけを行うようにしている。		
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便チェックをきめ細かく行い、医師とも連携しながら個々に応じた対応を行っている。また、適度な運動にも心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴時間の目安は決めてあるが，ご本人の意思や体調に合わせて支援している。		

## B

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している。	ご本人の意思を尊重しつつ支援 している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	服薬支援についてはスタッフが 対応し、薬を受け取る際には、 医師・薬剤師等から説明を受け ている。また、症状の変化につ いては、きめ細かく医師への報 告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	塗り絵や散歩に出かける、家事 を一緒に行うなど、個々に合わ せたきめ細かい対応を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	散歩・買い物を中心に出かけて いる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	家族管理を基本とし、面会時な どに所持金を確認していただき 、個々の力量に応じて保管管 理できるよう図っている。		



## B

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望に応じて電話等の支援を行っている。また、暑中見舞いの葉書を書いたりもしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	いずれにも段差がなく、リビングルームにはサンルームがあり、いつでも暖かい日当たりを受けることが出来る作りとなっている。また、リビングルームの壁には季節感を感じられるレイアウトが行われている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファや和室を活用し、自由に使えるようにして個々の居場所を確保しているが、十分に活用出来ていない。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に事前に説明し、使い慣れたものを持ち込んでいただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりの設置、夜間に対しては足元灯の設置を通して自立支援の工夫を行っている。また、トイレを居室付近に3箇所設置し、行きやすい空間を作っている。戸外には園芸が楽しめる区画も配置しているが、十分に活用出来てはいない。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい

作成日 平成 22 年 12 月 20 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	防災グッズ等の備蓄がなされていない。	いざと言うとき誰もがすぐ持ち運び出来るよう各棟備品の確保と保管場所等職員全員に周知徹底する。	11月のミーティングにて必要な防災グッズ等を職員で検討し、購入	2ヵ月
2	1	各ユニットの理念が数年同じものになっている。毎年見直しを行ってもよいのでは。	分かり易い表現で見直しをし、利用者・家族へも目に付きやすい場所に掲載する。	来年3月のミーティングにて理念の見直しをし、次年度（H23年4月）より運用	4ヵ月
3	2	地域との付き合い、つながりをもっと深いものに。	運営推進会議には地域の代表や老人会理事等ご参加頂いているが、日常生活の中で地域住民との関わりを密にし、開かれたグループホームを目指す。	運営推進会議に公民館の館長にもご負担のないよう参加のお声を掛けさせていただき、また、夏まつり・運動会等季節の行事に近隣住民にも参加していただけるようチラシの配布などご案内をする。	1年
4	35	災害時の近隣との協力体制の確立、具体的な対策を。	当事業所また近隣の非常災害時等、いざという時にお互いが協力できるよう具体的な対策を立てる。	当法人の敷地内に多数の事業所があり、グループホーム単独での協力体制の確立が難しいため、法人全体と近隣との協力体制が求められる。そのため、総務管理部の協力を得、まず自治会長との対話を進めていき、その後総会等に参加または会長より話をさせていただき、理解を得る。	1年
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。